

平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果について

羽曳野市立誉田中学校

調査要領に記載されているとおり、本調査結果は、本校生徒の学力や学習状況を一定把握するためのものです。学校の教育活動の一側面として、今後とも子どもたちの学力、学習意欲の向上に努めてまいりますので、ご理解とご協力を頂きますようお願いいたします。（平成31年4月18日、3年生にて実施）

【1】本年度調査の概要

○目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査の対象学年

中学校第3学年

○調査の内容

- ・教科に関する調査（国語、数学、英語、英語「話すこと」）

【2】結果分析

【国語】

成果と課題	<p>— 成果 —</p> <p>○好きな作品について自分の感じたこと考えたことを書く問題について正答率が94.2%と高い。自分の考えを書くことに関しては意欲的に取り組める。</p> <p>— 課題 —</p> <p>○グラフや資料を活用する問題や、読み取って書く問題が苦手である。</p> <p>○国語の学習は将来役に立つと考えているが、活用しようとする意識は低い。国語で学んだことが日常生活や他の教科でどのように活用できるか、関連付けて考える必要がある。</p>
改善方針	<p>○自分の考えを書くだけでなく、様々な形式の「書く」トレーニングを行っていく。また、日常生活で使う書写を意識して取り組んでいく。</p> <p>○グラフや資料を活用する問題や、読み取って書く問題が苦手であることなどから、前年度に引き続いて、全国学力・学習状況調査の過去問題を授業内で取り入れていき、読む、書く、活用する力を伸ばしていく。</p> <p>○また、交流活動を通して自分の考えを広げ深めたり、多くの生徒の発表の機会を確保していく。</p>

【 数 学 】

<p>成 果 と 課 題</p>	<p>— 成 果 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年時より、毎時間小テストを行うことにより、基本的計算力をつけることができた。 ○「何故そうなるのか」を授業で繰り返し考えさせ、定期テストにおいて、規則性の問題や、思考力をはかる記述問題を繰り返し出題してきたことが、記述問題の正答率をあげることに繋がった。 ○知識・理解の定着を見取る問題は、継続的に過去問などから定期テストで出題してきた結果、一定の成果を得ることができた。 ○無回答率が低く、質問紙の数学の項目からも、数学への興味・関心が高いといえる。 <p>— 課 題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表や図、グラフを読み取る問題の正答率が低い。 ○全体的には無回答率は低かったが、関数分野の活用が苦手で、他と比べるとその分野の正答率が低く、無回答率が高い。 ○式の意味の理解度をはかる問題の正答率が低い。
<p>改 善 方 針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な計算、記述式問題の正答率が高いことから、今後も授業の中での小テストの活用や、記述する機会をこれまでと同様に設けていく。 ○課題から、表や図、グラフを読み取ることが苦手なので、表や図、グラフを読み取る問題の反復や授業での丁寧な指導を行う。毎日の小テストも、今までは計算問題中心で出題をしていたが、今後は表や図、グラフを読み取る問題もいれていき、復習する機会を増やし、知識、技能の定着をめざしていく。

【 英 語 】

<p>成 果 と 課 題</p>	<p>— 成 果 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年時より教科書の本文の内容把握を確認するQ&Aに取り組んできたことで、ある程度まとまりのある英文を読み取る力がついていることがわかった。 ○「聞くこと」に関しては活動を中心としたALTとの授業や、定期テストに毎回リスニングテストを実施するなどの結果、正答率が高かった。 <p>— 課 題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」に関しては適語補充の問題と3人称単数現在を用いる問題において正答率が低かった。 ○「話すこと」に関しては2年時から練習を重ねてきたが、即興で会話文を考えて答える問題で無回答率の高さが目立った。
<p>改 善 方 針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「書く力」をつける取り組みとして、日々の授業の中で自己表現をする機会を増やす。また、国語科とも連携し「自分の意見を文章で表す」ことに積極的に取り組ませる。 ○4技能全てに必要な語彙力をつけさせるための小テストの実施。 ○英文を読み取る問題では正答率が高かったため、英問英答の取り組みを継続していく。

【3】生徒アンケート結果（大阪府・全国は今年度の数値）

質問項目は、毎年変わるため、3年間のデータがない場合もあります。

生活習慣

○朝食を毎日食べていますか・・・毎日食べている

本校	(H29) 69.8%	(H30) 70.9%	(H31) 79.7%
大阪府	78.0%		
全国	82.3%		

○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか・・・毎日決まった時間に起きている

本校	(H29) 47.0%	(H30) 53.9%	(H31) 51.4%
大阪府	56.3%		
全国	57.0%		

○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか・・・毎日決まった時間に寝ている

本校	(H29) 28.2%	(H30) 27.3%	(H31) 28.3%
大阪府	33.8%		
全国	33.6%		

○家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。(本年度新規質問)
・・・①「している」 ②「どちらかといえばしている」 ③肯定的回答①+②

本校	(H31) ①41.3%	②34.8%	③76.1%
大阪府	(H31) ①43.2%	②30.2%	③73.4%
全国	(H31) ①46.4%	②30.0%	③76.4%

○学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)・・・全くしない

本校	(H29) 43.0%	(H30) 40.6%	(H31) 35.5%
大阪府	44.8%		
全国	34.8%		

「朝食を毎日食べる」の割合が少し高くなりました。ご協力ありがとうございます。反面「毎日同じくらいの時刻に起きている」「毎日同じくらいの時刻に寝る」の割合が、依然として国や府の平均に比べて低いです。睡眠時間と朝食には深い関係性があり、どちらも日常生活のリズムをつくることや体調を維持するための大きな要素です。睡眠は日常の脳を活性化させ、体の成長にも大きな影響を及ぼします。加えて、朝食の摂取は体温を上昇させ、免疫力の向上を促します。有意義な学校生活のためにも、これまで以上に、規則正しい生活と朝食の摂取をお願いいたします。

また先日、日本の子どもたちの読解力が低下しているという報道がありました。これは、ゲームや映像ではなく、文章を読んで、情景や心情をイメージする機会が少なくなってきたことが要因ではないかと推測します。本校では、8時35分の出欠確認後、10分間の朝読書をしています。加えて、8時25分登校を奨励し、10分間の自主読書の時間を設定して、読書習慣を身につける取組みを継続しています。ここ3年間で、「授業以外で読書を全くしない」生徒の割合が少しずつ減ってきていることは、こういった取組みの成果だと考えています。学校や市内図書館の貸し出し等を利用していただき、家庭でも読書の機会をつくっていただき、子どもたちの読解力の向上にご協力ください。

学習状況（家庭学習）

○学校の授業時間以外、普段1日どれくらい勉強しますか・・・0～30分未満

本校	(H29) 22.2%	(H30) 15.8%	(H31) 17.4%
大阪府	18.0%		
全国	12.8%		

○家で、自分で計画を立てて勉強していますか・・・している

本校	(H29) 18.8%	(H30) 8.5%	(H31) 12.3%
大阪府	14.2%		
全国	14.9%		

家庭学習習慣の未定着は本校にとって、従前からの大きな課題です。今年度は、「学校の授業以外、普段1日にどれくらい勉強しますか」に対して、0～30分未満と答えた生徒の割合が微増しています。また、「自分で計画を立てて勉強をしている」生徒の割合は、昨年度より上がったものの、国や府と比較すると下回っています。

本調査対象の3年生は、現在、受験モードに入っており、調査時期(4月)よりも、当然、家庭学習時間も増え、計画的に学習を進めていると思います。しかし、早い時期から、部活動との両立を行いながら、少しでも毎日学習することによって、授業での学習内容が定着し、受験に向けた学習が、より効率的にできると思います。学校でも、各教科ともに課題の出し方や家庭学習を促進するための工夫をしていきたいと考えておりますので、ご家庭でも、ご協力いただきますようお願いいたします。

授業内容（指導の工夫・改善）

○1・2年生のときに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか・・・思う

本校	(H29) 32.2%	(H30) 21.2%	(H31) 22.5%
大阪府	26.8%		
全国	29.3%		

○1・2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか・・・思う

本校	(H29) 14.8%	(H30) 10.9%	(H31) 13.0%
大阪府	17.4%		
全国	18.1%		

○生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか・・・思う

本校	(H29) 16.8%	(H30) 30.9%	(H31) 18.8%
大阪府	24.9%		
全国	28.3%		

○先生は、授業やテストで分からないところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか・・・思う

本校	(H29) 32.5%	(H30) 質問なし	(H31) 35.5%
大阪府	32.7%		
全国	37.3%		

各質問の結果を総じて分析すると、授業の中で話し合っ解決方法を導き出したり、自分の考えを、伝える方法を工夫して発表したりするなどの機会を経験していない傾向が見られます。

令和3年度からの中学校新学習指導要領では、生徒が話し合いなどを通じて自ら考え、課題解決に向けての手立てを、発表などを通して共有しながら、自主的に学んでいくという「主体的で、対話的で深い学び」といわれる学習形態が主流となります。今後は、生徒たちの自主的な活動を取り入れた学習活動を進めていく必要があると考えます。

同時に教員も、生徒たちのつまずきを解決できるように、より一層、対話を大切にしながら取り組みたいと考えています。

子どもたちの自分自身や学校生活への意識

○自分には、よいところがあると思う・・・思う

本 校	(H29) 31.5%	(H30) 30.9%	(H31) 14.5%
大阪府	25.1%		
全 国	29.0%		

○将来の夢や目標を持っていますか・・・思う

本 校	(H29) 40.3%	(H30) 46.1%	(H31) 39.9%
大阪府	43.2%		
全 国	44.9%		

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか・・・思う

本 校	(H29) 55.0%	(H30) 73.3%	(H31) 64.5%
大阪府	67.8%		
全 国	71.1%		

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う・・・思う

本 校	(H29) 77.2%	(H30) 79.4%	(H31) 73.9%
大阪府	76.2%		
全 国	78.3%		

○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか・・・思う

本 校	(H29) 41.6%	(H30) 38.8%	(H31) 27.5%
大阪府	27.4%		
全 国	31.3%		

○学校に行くのが楽しい・・・思う

本 校	(H29) 49.7%	(H30) 質問なし	(H31) 50.0%
大阪府	42.8%		
全 国	45.7%		

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか・・・思う

本 校	(H29) 73.2%	(H30) 質問なし	(H31) 77.5%
大阪府	74.6%		
全 国	75.6%		

○学級みんなで話し合っで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか・・・思う

本校	(H29) 58.4%	(H30) 質問なし	(H31) 46.4%
大阪府	42.1%		
全国	45.4%		

○難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか・・・思う

本校	(H29) 20.1%	(H30) 質問なし	(H31) 23.2%
大阪府	22.8%		
全国	22.5%		

○学校の規則を守っていますか・・・思う

本校	(H29) 59.1%	(H30) 58.2%	(H31) 54.3%
大阪府	64.1%		
全国	66.8%		

本校では、生徒同士や生徒と先生との人間関係づくりを大切にしながら教育活動を進めています。その中で、「自分には、よいところがある」と答えた生徒が少ないこと、「将来の夢」持っている生徒や「人の役に立つ人間になりたい」という生徒の割合が低くなっていることが気になります。自己肯定感と自己有用感など、自分に対する評価が低く、自信を持つことができていないと考えます。

次に「学校に行くのが楽しい」やその他の「達成感」に関する説問に対しては、国や府よりも肯定的な回答が多くみられます。「思う」に加えて、「どちらかと思う」という肯定的な回答全体を見れば、80%を超えています。これは、誉田中学校の伝統でもある「集団づくり・仲間づくり」の成果であると考えます。

反面、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の設問で、そう思っている生徒の割合が、大幅に減少していることは、人間関係づくりを大切にしている私たち教職員にとって、何より改善すべきところだと考えます。今年度は、「誉レボリューション～夢中になろう!!～」というスローガンのもと、子どもたちの頑張りを見守りながら、励ましの声かけや学校HPでの情報発信に取り組んできました。今後も、子どもたちの頑張りを見守りながら積極的に評価していきたいと考えています。

加えて「学校の規則を守っていますか」の質問に対して、「守っている」と感じている生徒の割合が減少傾向にあります。学校全体としては、子どもたちがルールを守らず指導の場面が多いという状況はあまり見受けられません。ただ、今年度から自転車通学生に対してヘルメット着用を義務づけたことで、教員が見ていない学校外でも守るべきルールができ、教員も注意する機会も多くなっていることから、「守れていないと感じる」生徒が多いのではないかと推測します。

誉田中学校の良さを生かしながら、課題に対しては少しでも早く対処してくように、私たち教職員一同、努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。